



自然がいっぱい 優しさがいっぱい

副校長 原田 美智子

飯島小学校へ異動してきて、3ヶ月が経とうとしています。子どもも大人も新しく環境が変わる4月は緊張します。でも、少しずつ新しい先生や新しい友達に慣れて、安心して生活できている子ども多いのではないかと思います。

私が4月に飯島小へ来て、まずびっくりしたのは、校内の自然の豊かさです。里山にはいろいろな木々があり、果樹園もあります。正門前には、せせらぎがあり、登下校の際、子どもたちは池をのぞいてメダカを探したり、水の流れる音に耳をすましたりしています。学習池には、コイやカメがいます。柏尾川から捕ってきたウナギもいるらしいのですが、私はまだ筒から出てきている姿を一度も見ることがありません。南門の近くの「カエル邸」には、はすの葉が浮き、日本の固有種である茶色いアズマヒキガエルがたくさんいます。50匹位いるそうですが、昼間はどこかに隠れていて、夜になると通路に出てきて、カエルの合唱を奏でています。

そんな豊かな自然の中で育っている飯島小の子どもたちは、とても人懐っこく、優しい子が多い印象です。学校の中だけでなく、バス停で会っても、バスの中で会っても、「副校長先生！」と話してくれる子がたくさんいます。先日、出張に行く際も、下校途中の子どもたちが「副校長先生、どこへ行くの？一緒に帰ろう。」と声をかけてくれました。「栄区役所まで行くよ。飯島上町のバス停がたくさんあって難しいね。」と話すと、子ども同士相談しながら、「ローソンのところを曲がるんだよ。」「こっちから行くと近いよ。」とロク々に教えてくれました。最後は、「じゃあ、〇〇ちゃん、後はよろしく。」「副校長先生、この子がバス停の近くまで案内してくれるから。私は通学路こっちだから。さようなら。」と言って、颯爽と帰って行きました。低学年の子たちでしたが、頼りになるなど感心しました。

そういえば、3月に初めて飯島小学校へ来た時も、道に迷った私を、飯島小卒業生の飯島中の生徒が学校まで案内してくれました。しかも、部活に行く途中だったのに、「もし遅れたら、道案内しているって先生に言っておいて。」と友達と別れ、一緒に団地の中を抜けて、校舎が見える場所まで来てくれたのです。飯島の子どもたちの面倒見の良さと優しさは伝統として受け継がれているのだと、嬉しく思い出しました。

6月15日には地域の皆様が、6月27日にはPTA厚生委員さんが、里山や花壇の草刈りをしてくださいました。飯島小の豊かな自然と学習環境を守るために、たくさんの方々が力を貸してくださっていることに感謝いたします。

